



# 二月

# パストラール尼崎

## ◆二月の歳時記◆

### 『大根（だいこん） 焚き』

「冬の京都の伝統行事「大根（だいこん）焚き」をご存知ですか？「大根焚きが行われると冬の到来を感じる」と言われるほど、京都では冬の風物詩として古くから親しまれています。みなさんもニュースなどで、大釜で炊いた大ぶりの大根をおいしそうに頬張る参拝客の映像を何度か目にしていただいているのではないのでしょうか。シンプルなのにたまらなく美味しそうですね。」



「大根焚き」は諸病封じ、健康増進を祈願する為に行っている伝統行事ですが、どのお寺も味付けなどは変われど、大釜で大量の大根を煮て参拝者に振舞う点は共通しています。多くの寺院では十一月から二月にかけて行っていますが、その先駆けといわれている千本釈迦堂では、鎌倉時代に大根の切り口に梵字を書いて魔除けにした事が起源だそう。



各寺院では、この行事に合わせて重要文化財が公開されたり、また境内では、お寺で御祈願された聖護院大根などが販売されていたり、限定品のお守りが授与されたりと見どころが満載らしいのです。左記に少しご紹介します。

#### 【妙満寺】：（ゆずの香りがいいですね！）

この大根焚きは、大きな大根二切れと油揚げ一枚の上に、柚子の皮が添えられているのが特徴。十二月上旬は境内を彩る名残の紅葉も楽しめるので、美しい景観とともに美味しい大根焚きを満喫できます。

#### 【千本釈迦堂】：（超有名！梵字が書かれた大根を使用。）

こちらの大根焚きは特に有名で、加持祈禱されて梵字が書かれた大根を使用しているのが特徴。大ぶりにカットされた大根三切れに油揚げ一枚がのせられており、京風の昆布出汁で味付けされたあっさりとした味付けです。

#### 【了徳寺】：（亀岡産の青首大根を使用）

亀岡市で作られた青首大根を仕様。ホクホクの大根に揚げ豆腐が一枚添えられており、味付けは薄めの醤油ベースになっています。通常の大根焚きの券のほか、かやくごはん、大根葉のおひたし、たくあんが付く券も販売されています。

#### 【三千院】：（二月に開催されます）

三千院では毎年二月十一日の前後四日間、地元・大原の畑で有機栽培された大根焚きが行われ、無料で参拝者に振舞われます。

## 「ヒートテック」にも寿命が？

今や幅広い年齢層に認知されている下着、某メーカーの『ヒートテック』。愛用されている方もおられるのではないのでしょうか？

しかし、その『ヒートテック』にも寿命（一般的には1～3年）があるのをご存知でしょうか？ そもそもヒートテックは、素材にポリウレタンを使用しています。ポリウレタンは、水分や熱や紫外線などにより分解され、劣化していくのだそう。（そういえば、新品のヒートテックは暖かい。汗）だいたい最初より伸びてきたり色落ちしてきたら寿命だそう。生地が伸びると肌との間に隙間ができ保温低下の原因になるのだとか。なので、最初に買う時に大きめを買うのはNGだそうです。

出来るだけ長持ちさせるには、

- ①ネットに入れて洗濯する。
- ②熱や紫外線に弱いので乾燥機は使わず陰干しするのがよいそうですよ。



## 79年前の「隠された地震」

戦争末期、1944年12月7日午後1時36分に、マグニチュード7.9の地震が発生しました。昭和東南海地震です。（ご入居者の中にも経験者がおられるかもしれませんね。）

しかし、その日の地元・中日新聞の一面には昭和天皇の軍服姿が載り、地震についての記事は、三面に「天災に怯まず復旧」の見出しで「大きな被害はない」という簡単な記事のみ。汗 敗戦が危ぶまれた時期で、大きな地震被害は秘密扱いにされたようです。情報統制下、援助の手など届く訳もなく救える命も救えなかったかもしれません。

一方、海外では、翌日のニューヨークタイムズに、地震の事が大きく取り上げられ、世界各地の地震計に基づいた分析により、震源は本州沖、津波を伴った大きな被害が出ているはずと推測。連合国には、巨大地震の発生を隠す事はできなかったようです。さらに東南海地震の37日後の1945年1月13日には、誘発地震とも言える三河地震が発生。マグニチュード6.8の地震で、死者は東南海地震の約二倍、2306人だったと言われています。多くの犠牲者を出した原因は、直下の活断層のずれに伴う強烈な揺れに加え、未明の地震だった事、東南海地震で被害を受け弱くなった建物が多かった事などが考えられます。

79年前、戦時下に起きた東南海地震と三河地震は、軍部による情報統制により「隠された地震」とも言われています。

